



農業委員会だより

■ 発行人 飯山市農業委員会 松永晋一
■ 編集 飯山市農業委員会 情報委員会

飯山市
農業委員会事務局
飯山市役所農林課内
電話：62-3111
(内線 261)
FAX：62-6221

17.1

No.222

年頭のご挨拶



農業委員長
松永 晋一

明けましておめでとうございます。皆様にはお健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年はかつて経験のした事が無い様な小雪となり春の訪れは早かったものの凍霜害の発生により果樹等では著しい不作となり、水稲では水不足でたいへんご苦労されました。秋には相次ぐ台風の上陸や長雨により野菜が不作となり近年に無い高値となりました。また、水稲は幸いにも豊作となりそれまでの苦勞が報われた年となりました。

環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)承認案と関連法案が12月9日、参議院本会議で与党などの賛成多数により可決・成立しました。

かし、次期米大統領のトランプ氏は就任初日にTPP離脱をすると就任前から表明しており、TPPの発効は絶望視されています。トランプ氏の政策は不明ですが、いままでの言動から米国の利益をむき出しにした経済連携協定(EPA)締結を迫ってくる事が懸念されます。現在交渉中の日本とEUとのEPAも含め注視し、農業の展望が図れるよう国の政策に反映されるよう引き続き運動を進めてまいります。

改正農業委員会法が4月1日施行されました。改正法では農家の高齢化担い手が減少する中で、優良農地の確保と効率的な利用の促進に取り組み、企業も含めた担い手への農地の集積・集約化等、農地の活用を促進する事が法令化され最も重要な業務となりました。

集積・集約に積極的に取り組んでまいります。

本年も、農政諸課題について、農業委員会組織を挙げて真に農業農村の発展になるよう、運動を継続してまいりますので、各位のご指導ご協力をお願いし、年頭のご挨拶といたします。

農業委員の異動について

議会推薦による農業委員の異動がありました。松本淳一委員(飯山)、小林喜美治委員(秋津)が平成28年11月30日退任されました。法改正により新たな委員の選任は行いません。

あしあと 11・12月の活動記録

- 11月8日 長野県農業委員会大会(伊那市)
- 10日 農業委員会役員会
- 24・25日 管外研修視察
- 30日 11月農業委員会総会
- // 新農業委員会体制検討委員会
- 12月8日 農地相談
- // 農業委員会役員会
- 13日 県農村女性フェスティバル(長野市)
- 26日 12月農業委員会総会

第1回長野県農業委員会大会

11月8日伊那文化会館において第1回長野県農業委員会大会が開催され、県内の農業委員及び農地利用最適化推進委員等が一堂に会しました。

「人と農地制度」の推進組織としての責務を再確認するとともに、基本農政の確立に向けた要請決議と、農業委員会組織による「新・農地を活かし、担い手を応援する運動」に関する申し合わせ決議を行いました。

また、長年にわたって飯山市農業委員を務められた大口千恵子さん(太田)がその功績を認められ、農業委員等功労者表彰を授与されました。

農業委員会研修視察報告

11月24日から25日、農業委員会は関東方面に視察研修に出かけました。委員は14名、事務局から2名の参加となりました。

初日は、寒い雨模様の中を、長野県のアンテナショップ銀座NAGANOを見学しました。のっぽなビルに入っています。1階は県内の様々な物産が所狭しと展示、販売されていて地酒も飲めるカウンターがあります。2階がイベントスペースと観光案内、4階がワーキングスペース。移住交流と就職相談となっています。

2日目は朝5時半前に起床5時50分出発で東京都中央卸売市場大田市場に向かいました。大田市場は青果物・水産物と花きを取り扱う総合



市場で青果と花きの取扱量は国内最大規模です。視察当時、野菜は高値の2倍くらいにもなっていました。収穫量が少なく農家の手にわたるお金はかえって少ないとのことでした。リンゴの競りを傍らから見学しました。掛け合いの言葉の意味は全然分かりませんでした。フロアーにJAながのみゆきのぶなしめじがあるのを発見し、視察目的のひとつを達成した思いでした。見学後は市場ならではの新鮮な朝食をいただきました。

午後は埼玉県加須市にある、トキタ種苗(株)大利根研



究農場を視察しました。創業大正6年(1917年)、野菜と花の新しい品種をつくる(育種する)会社です。消費者、生産者の目線で、従来の規格や形にとら

われず、本当に食べたいおいしい、健康を考えた野菜を開発しているとの説明でした。ミニトマトを開発して全国の販売量の50%をしめており、またヨーロッパの野菜に注目しているようです。種はその地域、地域に合わせて育種する必要があり、他の地域から持ち込んでそのままでは使えず、選抜が必要で、新しい種をつくるには10年はかかるようです。

種の販売は出口戦略がしっかりしていないとうまくいかないといわれ、大手スーパーマーケットに新野菜を勧めたり、推薦の理由はこれこれと提案して種を販売するなど、単に新品種をつくってあとを生産者まかせにしている点重要です。生産される野菜の売り先を開拓しながら



新しい種を勧める方針です。種のカタログに美味しそうなお料理レシピがついていて驚かされます。

飯山市の状況も含め、一般的には現在、生産者が使う種はF1といわれる雑種第一代がほとんどで、毎年、種を購入していると思います。

ただし伝統野菜などは固定種といわれ作物から次の年の種が取れるものもあり重要です。

これからの農業を考える時、まず売り先を開拓して、それに合わせて(新種)作物を栽培し売り込む姿勢は非常に大切だと思います。本当に必要とされるものを、少量生産してネットで売る、すでに飯山市内でも行われているかもしれませんがトライする価値はありそうです。ふるさと納税のお返しもその線です。

使えると思います。種の世界はとても奥が深く、これからの農業、特に畑作の突破口になると感じました。

農場施設見学の前に、種苗についての説明を受けました。が大変活発に討議がなされ、予定時間が超過してしまっただけです。

前情報委員 松本淳一